

香川用水

香川用水は、吉野川総合開発の一環として早明浦ダムで開発される水を香川県に導流し、香川県の用水不足を解消して、産業基盤を強化するとともに生活環境の整備を図ることを目的とするものです。吉野川上流に建設された早明浦ダムによって新たに開発された水量年間8億6,300万 m^3 のうち、2億4,700万 m^3 を池田ダムに取水施設を設けて取水し、阿讃山脈を貫く8kmの導水トンネルで三豊市財田町に導き、ここから東西に延びる幹線水路によって、東部は東かがわ市白鳥の宮奥池まで、西部は観音寺市豊浜町の姥ヶ懐池まで、また高瀬支線として三豊市高瀬町の満水池まで、総106kmの水路で農業用水、工業用水、水道用水に利用する計画です。

吉野川総合開発計画の一環としての香川用水計画は、昭和27年に四国4県の吉野川総合開発調査に始まりましたが、関係者の意見はなかなかまとまりませんでした。しかし、昭和35年の四国地方開発促進法の制定以降、吉野川総合開発を進めようとする動きが活発になり、昭和41年に早明浦ダムの建設を中核とする吉野川総合開発計画に四国4県が同意しました。一方、香川県の陳情を受けた農林省は、昭和41年に香川用水計画を国営土地改良事業調査地区として採択し、昭和42年に全体実施設計に着手、昭和43年に全体実施設計を完了しました。昭和43年10月には香川用水事業の起工式が行われ、幹線水路は共用区間が水資源公団事業として、農業専用区間が国営事業として実施され、末端支線水路は規模に応じて県営または団体営土地改良事業として実施されました。昭和49年5月に香川用水共用区間の通水式が行われ、昭和50年4月に本格通水が開始されました。

導水水量は、当初計画では、農業用水として年間1億500万 m^3 、工業用水として7,900万 m^3 、水道用水として6,300万 m^3 の合計2億4,700万 m^3 の水量としていましたが、その後、工業用水と水道用水については供給計画に併せて2回変更され、現在、工業用水は1,990万 m^3 、水道用水は1億2,210万 m^3 となっています。農業用水は23,670haの農地に、水道用水は8市5町に、工業用水は中讃地域臨海工業地帯に供給され、香川用水は香川県の農業用水の約3割、水道用水の約5割、工業用水の約2割をまかなっており、香川県民の生活に欠かせないものとなっています。

香川用水では、用水の安定供給のために、水路施設の改修や水道用原水調整池（宝山湖）の建設なども行われてきました。香川県のホームページには、香川用水の安定供給が長年続けられてきたのは、先人たちの苦勞と水源地域の方々の理解・協力のおかげであり、四国4県の「友情の水」である香川用水をこれからも大切に活用していかなくてはなりませんと記しています。池田ダムの香川用水取水工には、香川用水事業に尽力した四国地方開発審議会会長中川以良氏の書による「四国は一つ」の碑が建立されています。

<参考文献：香川用水史編集委員会編「香川用水史」1979年、水資源開発公団香川用水建設所編「香川用水工事誌」1975年、香川県の香川用水に関するホームページなど>

